

2011. 12. 13 : 平成 23 年_文教常任委員会 (第 1 号) 本文

○宇野 裕委員 高校の再編についてお伺いをしたいと思います。何点かお伺いしたいと思います。今回の統合案の作成に至った経緯、それから、その理由。そして、今後どのように県民の声を聞いていくのか。そして、どんなスケジュールでこれを決定していくのか。これらについてお答えをいただきたいと思います。

○委員長 (松下浩明君) 溝口県立学校改革推進課長。

○説明者 (溝口県立学校改革推進課長) それでは、経緯、理由につきましては、肝心かなめの部分でございますので、少しお時間をいただきたいと思います。よろしく願います。

まず、経緯でございますけれども、夷隅地域につきましては中卒者数の減少、これは引き続き現行計画でも——統合しましたが、その後も引き続き減っておりまして、私どもとしても注視をしていた地域でございます。この夷隅地域だけでなく、県全体の県立高校、今後どのようにしたら魅力ある学校をつくっていけるかということで、平成 21 年度に魅力ある高等学校づくり検討委員会、これは外部委員さん、学識経験者の方々なども入った検討委員会でございますけれども、その検討委員会をつくりまして、短期的な課題、あるいは長期的な課題につきまして、どのように対応していくか、そういう御協議をいただいたところでございます。この委員会からは、高校の活力を維持するためには選択と集中が必要であり、ある程度の統合はやむを得ないと。地元の意見を聞きながら、より魅力ある高校づくりに向けた検討を進める必要があると考える、このような報告をいただいたところでございます。

この報告を踏まえまして、22 年度、昨年でございますけれども、県立学校改革推進プラン策定懇談会を設けました。こちら学識経験者やさまざまな方面の委員さんに入っていたいただいた会議でございます。この中で夷隅地域につきましては、特に地元の方々、関係者による協議会を設けて意見を聞いたかどうかという提案がございまして、年度途中でございしますが、夷隅地域に関係者の委員さんから成る地域協議会を設けた次第でございます。メンバーとしては、いすみ 4 市町の企画担当課長さんにも入っていただきました。地元の方にも入っていただきましたし、商工関係の方にも入っていただきました。また、高校長もオブザーバーで出ているところでございます。

この地域協議会の中で、夷隅地域の 4 校、小さくなくても残してくれというような意見もあったわけではございますが、大まかなところでは、郡部にあっても、一定の学校規模

は必要である。そして、夷隅地域の県立高校4校を段階的に集約していく方向性はやむを得ないと。また、さまざまな学びを備えた総合大学のような高校を1校設置すること。あるいは、求められる高校像を集約した高校で担うことなど、そういうことに配慮する必要があるというような報告を受けたわけでございます。したがって、こういう魅力ある高等学校づくり検討委員会、あるいは策定懇談会、あるいは地域協議会、また、そのほかに地域の教育関係者等から聞き取りなどを行いました。これは夷隅4校の開かれた学校づくり委員会の委員さん方——これは地元の住民の方々が入った委員会でございますけれども、そういうところでも、夷隅地域の学校についてはどうしたらいいのかということで個々に検討をしていただいた経緯がございます。このように2年間かけて、今回のプログラム案を検討した次第でございます。

経緯につきましては、以上でございます。

続いて今回の大原、岬、勝浦若潮の3校統合の理由でございますけれども、先ほど申しましたとおり、夷隅地域につきましては、中卒者数が依然として減少していると。数字で申しますと、ピークですと、平成元年度が中卒者数が999人ございました。それがことしの春、23年3月は639人になっております。これがまた10年後、平成33年でございますけれども、445人と、このようにピーク時の半分以下になってしまうような状況がございます。445人ですと、必要な募集学級数はどのくらいかと申しますと、445人全員が県立高校に行かれるわけではございませんので、私どもの推計では8クラス分あれば足りるのかなと思っております。多く見積もっても9クラスということで見積もっております。ということは、2校規模まで集約せざるを得ないような状況がございます。

また、現在も、3校とも平成24年の募集学級は、大原も岬も勝浦若潮も3クラス募集というような状況になっております。また、大原の健康スポーツ科、それから勝浦若潮の総合学科、こちらのほう、依然として定員割れが続いておりまして、特に若潮高校は充足率が半分ちょっとということで、120名募集しても六十数名、70名弱の生徒さんしか入っていただけないような状況もございました。こういう状況を勘案いたしまして、地域の中学生にとって、地域の学校に行きたくなるような魅力ある学校を早期につくる必要があるのではないかとということと、それから、将来的には、統合を段階的にやっていきますと、1回統合をやってまた統合があるという話になりますと、在校生にとっても非常に落ちついた教育環境が保てない、そういうこともございますし、中学生にとってもわかりづらいということがございますので、今回、27年度に3校をまとめて統合させる案としたわけでございます。これが3校統合の理由でございます。

今後の県民の声をどう聞くかということでございますけれども、現在、発表の翌日、11月17日から1月6日までパブリックコメントをただいま募集している最中でございます。また、そのほかに、県主催で県民説明会をあした14日と15日、特に夷隅地域につきましては、15日になりますけれども、あさって開催する予定でございます。また、そのほかにも、県の主催ではございませんが、地元から要望がございましたら、私ら、どこへでも出向く

つもりであります。そのほかに市町村長さんですとか、市町村の教育長さん、あるいはP
T A、私学団体や教職員団体、あるいは農工商水の関係団体等に出向いて、あるいは、さ
まざまな方法で御意見をいただきたいなと思ってるところでございます。特に市町村教育
長さん方につきましては、もう既に発表後、ほとんどの市町村教育長さんの御意見は聞い
ております。夷隅地区の中学校長さん方からは、やはり残していただきたいという声が強
く出ているところでございます。このようにパブリックコメント、あるいは関係団体等か
ら意見をお聞きしまして、現状でいけば、もう一度、2月議会を通さなくてはいけないの
かなと感じている次第でございます。少なくとも年度内には何らかの形で決定したいなと
思ってる次第です。

以上です。

○委員長（松下浩明君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 御丁寧な御説明ありがとうございました。よくわかりました。地元の思
いというのは非常に複雑な思いだと思います。今、溝口課長さん、お話ありました経緯、
また背景とか、そういうことを聞くと、なるほどなという思いも一方ですのような気もし
ます。ただ、地元には母校愛だとか、いろいろな思いがあると思います。これから2月議
会に向けてという言葉がありました。今後、パブコメだとか、地元の声を聞く機会がい
ろんなところであると思います。しっかりと地元の声を聞いて、慎重に、そして地元の理
解を得られるような意思決定をこれからやっていただきたいというふうに、これは要望で
す。

以上です。